

# 1. 評価結果概要表

作成日平成19年 10月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372700617
法人名	有限会社 介護ひがしやま
事業所名	
所在地	岩手県一関市東山町長坂字北磐井里187-3 (電話) 0191-35-3368
評価機関名	(財) 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成 19年 7月 25日

## 【情報提供票より】(平成19年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 18日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	44,075 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	7名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	77歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立大東病院、岩手県立千厩病院 岩手県立磐井病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

にこにこ東山は岩手、宮城、青森の3県で、医療・介護・福祉・教育の事業を幅広く展開している「シルバーグループ」の傘下として、東山町山手の閑静な集落にあった特養の施設を改良し、4年前の平成15年7月に2ユニットのホームとして開設されており、職員は、今年度地域密着型のホームとして理念の見直しを行ない、以下の理念「職員はご利用者様とご家族様が家庭的な環境と地域に囲まれた環境の下で、笑顔で明るく安心した日常生活が送れ、ご利用者様の残された機能の充実を支援することを目的とします」をモットーに、寝たきりの利用者に対しては、事業所の多機能性を活かし併設のデイサービスの全身入浴サービスの利用、また、医療連携によるチーム一丸となったターミナルケアの取り組み、更に、地域に密着した様々な活動を通じ理念の実践に向けた取り組みが行なわれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度評価では、全ての項目が「できている」と評価されており、主な改善課題の提案がなかったため、今回の評価では事業所側が自主的に取り組んでいる内容の中から選んで記載することにした。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	評価の見直しは外部評価を含め、年4回実施しており、自己評価については2ヶ月に1回実施し改善点を話し合っている、外部評価の導入により職員が団結し、常に気配りをするようになった。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議が組織される前は、ホームは地域から孤立化の傾向にあったが、組織されてから地域との結びつきが強くなった、推進会議は2ヶ月に1回開催されており、5月の会議では関係者12名が参加、理念の見直し、家族会結成、医療連携によるターミナルケア、外部評価、老人クラブとの交流、認知症を理解してもらう説明会、広報の回覧、小学生の下校時の見守り隊参加、消防団・婦人会・自治会との連携、避難訓練実施等について報告、協力要請、取り組みについて話し合いが持たれた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	昨年4月、花見の時に家族会が正式に結成され、ホーム独自のアンケート調査、投書箱、苦情受付簿等により対応している、月1回の来所時には、家族より直接話を聞き運営に反映させている、なお、受付簿に苦情が一件あったが、容易な内容であったためすぐ改善された。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	小学生の下校時における見守り隊(老人クラブと一緒に)の参加を始め、広報誌の地域回覧、学校行事の見学、地域清掃活動への参加、老人クラブとの交流会では認知症の説明会と相談の実施、町の移動図書館の利用、また日常的な散歩、畑作業中でも気軽に挨拶を交わすなど地域との連携、きずなは深まっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	情報提供票の事業の目的および運営の方針に明示されており、従来の理念をもとに、4月12日のミーティング(月2回実施)の際、職員の協力のもと地域密着型サービスとして対応できる内容に見直しが行なわれた。なお、この理念は玄関、掲示板、食堂、事務所等の見やすい場所に「にこにこひがしやまの理念」として、わたしたち職員はで始まる言葉と共に5行で掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有については、10時と15時の引継ぎの際、誰が言い出すともなく全員が理念を自然に唱和しており、日常生活の中では小さなことでも出来たことを喜び合い、家庭的な環境の温存と地域の人々とのふれあい(ボランティアの受入れ、野菜をいただく、散歩時の挨拶、学童の帰宅の際の見守隊参加、)等を通じ理念の実践に向けた取組みを行なっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は東山支所福祉課、地域住民代表の区長、および老人クラブ代表等と連携し、運営推進会議の開催を始め、避難訓練、各種行事等で積極的に交流を図っており、特に、小学生の帰宅の際の見守り隊(月、水、金の週3回、地域代表2名と共に)の一員とし入居者・職員の計2名が参加している。	○	学童の帰宅時の見守り隊参加はまだ日が浅く、天候に左右されるため回数は少ないが、入居者の一人を除き全員が参加可能であり、地域に根差した活動としてぜひ継続して欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の見直しは評価の前後に各1回、自分達で半年毎に1回計4回実施しており、また、2ヶ月に1回は自己評価を実施し、改善点はミーティングで話し合っている。外部評価の導入により、職員間の団結がよくなり、常に気配りをするようになった、レクで作った飾り絵の展示も入居者に喜ばれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一関市職員1、地域住民代表者2、利用者及び利用者家族4、GH職員5の合計12名が参加、家族会発足の報告、医療連携によるよるターミナルケアの取組み、外部評価実施、地域密着型のサービス導入に伴い理念の見直し、地域との交流(老人クラブ、広報の回覧、学童への下校時見守り、避難訓練・消防団・婦人会・自治会等との連携)等が話し合われ、孤立化から地域に密着した施設として、会議での意見をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	前年度は包括支援センターの職員がメンバーに入っていたが、合併により市の方針が変わり本年度は保健センターの職員と交代した。悩みとか相談は電話だけでなくホーム側から出かけたり、必要に応じ福祉事務所職員がホームに来て本人と直接話すなどして問題解決にあたり、連携を深めている。	○	市の担当職員は交代したが従来同様、行政との連携を深めている。また事業所は地域との連携についても、積極的に取り組んでおり、推進会議等を通じ地域との関わりが一層深まるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活の状況、金銭管理簿については月1回の来所時に連絡、領収書にはサイン、来所できない家族に対しては郵送し処理している。体調の変化についてはその都度速やかに連絡しており、広報誌は2ヶ月1回、全体で51部印刷し、写真等を含む個人情報家族の同意を得たものを掲載し、家族、推進委員、15地区回覧用に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年4月の花見の際に家族会が正式に結成され、ホームでは独自のアンケート調査を実施し表にまとめている。更にホーム内に設置された投書箱、苦情受付簿(1件記入あり解決済み)などをもとに職員間で話し合いが持たれ運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来4年間に20人ほどの異動があった。併設のデイサービスへ異動した人、数日で離職した人などを若干含み1年あたり4~5人ほど異動等した計算になる。新人の紹介は広報に載せているが、退職者については「しばらくおやすみするからね」とか「旅行に行ってくる」など利用者へ配慮した紹介の仕方に対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で内部研修5回、外部研修を2回程度予定しているが、研修後はミーティングを行い周知徹底が図られている。職員との意見交換では外部研修(認知症基礎課程及びリーダー研修)を望んでおり、更に法人内の上部組織であるシルバーグループにはトレーナー制度があり、介護の質の向上を目指し、マニュアルに沿って統一された介護技術を身につけられるよう職員を育てる取組が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホームは大、小のブロックに分かれているが、全体と小ブロックは隔月ごとに会議を持ち、同業者の職員同士で連携を取り合っている。一関市内では16のホームと連携が可能であり、母体のシルバーグループは岩手、宮城、青森3県に医療、介護、福祉、教育の事業を展開しており、組織内に前述のサービスの質の向上と均一化を図るためのトレーナー制度がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のほとんどが一人暮らしで、市内又は近隣の病院からの退院者、もしくは他の施設からの利用者で、在宅からの利用者はいない。従って事前に家族とよく相談し、入院中に家族同席のうえ本人の意思を確かめてから入所していただくよう配慮している。	○	たまたま、退院者、多施設からの利用となっているが、在宅者の利用についても期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の風習、神棚の供え物の位置、畑、庭づくり等のアドバイスを受けており、若いスタッフは食事の作り方を教わっている。介護度の進んだ方には、思いを汲みとり残存機能が低下しないよう連携プレイで支援し、皿洗い等の後片付けは自然にできるようケアしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今一番困っているもの必要なものは何か(布団の洗濯、オムツの支援、食事制限を受けている人など)を言葉でなかなか伝えられなくても、職員が本人のニーズを確認しながら家族、主治医、栄養士との連携と指導の下に的確な支援を行っており、効果も表れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意向を大切に、その人らしさを失わないよう介護計画を立てカンファレンスを実施、職員はそれを共有して日々の介護に活かしている。	○	介護度が急速に進行した入居者について、チームが共通認識の下に連携し、介護用貸与事業者も協力し、ターミナルケアに取り組んでおり、運営推進会議でも医療連携の取り組みが報告されている。今後の取組にも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	水分補給を嫌がる利用者に対しては、現在のプランの見直しを行ない、食事に合わせて必ず飲ませよう工夫し支援している。また全ての利用者に対し1ヶ月に1回の見直しを行ない、何もなければ3ヶ月に1回の評価を行なうなど、本人及び家族のニーズが一致するように日々の変化を見逃さない介護を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	寝たきり状態の利用者に対し、併設のデイサービスの特浴(寝たままで全身入浴)施設の利用、レクリエーション、ボランティアの相互交流などを通じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則としてかかりつけ医は、入居前の主治医を継続させる方向で支援しているが、権利擁護の立場から家族等が遠方の場合に、本人の都合で変更する場合がある 通院・受診については重要事項の7の留意事項に、基本的に家族が対応する旨の記載と、緊急の場合又はやむを得ない事情により家族等が対応できない場合、職員が対応すると明示されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化および看取り介護に関する指針が定められており、マニュアルも用意されている、本人及び家族の希望による契約書も作成され、職員、主治医を加え四者のチームプレイのもとに、本人残存能力を最大限に活かした先駆的介護支援が行なわれており、利用者の重度化及び看取り介護に関するマニュアルも用意され、今後の推移と取組みが注目される。	○	医療連携体制のもとに、ターミナルケアの利用者が1名入所しており、重度化及び看取り介護に関する指針が定められ、契約書が取り交わされ、チームが密接に連絡を取り合い、本人の残存能力を生かした手厚い支援が行なわれている、今後の推移と取組みが注目される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	禁句マニュアルは、2年前に作成されたものを今年度見直しを行ない作成された、全体ケア、食事、入浴、排泄、ナースコール、居場所、その他の7項目に分かれており、日常の介護で思わず使ってしまいそうな内容が多く含まれている、制止の言葉を使わずに気をそらせる等、気付いたときに話題に出すなどして対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事作りなどで「今日はやりたくない」と表現できる人、様子で察知できる人、いつもと様子態度が違う人、食欲が落ち甘いものやビールを飲みたいと訴える人、それぞれの状況に応じ、体調の変化、トラブルの未然防止、家族による対応の必要性など判断し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度、後始末は役割分担がそれぞれ決まっています、指図がなくても自然に協力して行なっている、買い物外出で食べたいものがあった場合、急遽献立を変更し希望のメニューに変更するなどの支援も行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はケア・プラン、サービス提供記録と、かかりつけ医の健康診断、及び各人ごとの判定基準により実施しているが、希望日、頻度(通常は週2回程度、夏場最高は5回)、要望(異性・同性職員の介助、一番風呂)などを考慮して支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	独居、引きこもりがちで、地域との交流のない入居者が、ホームでの生活を通じ、カレンダーめくり、曜日の書き込み等を自分の日課としてとらえ、職員、入居者から認められることが継続の支えとなっており、箸配り、洗濯物の取り込み・たたみ方、料理、食事の後始末など、それぞれの生活歴、能力を活かした支援が行なわれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出、買い物等の外出希望が重なる場合には、一斉ではなく午前、午後に分けて対応しており、親戚の個展では多くの縁者と出会うことができ、故郷訪問では生家の草取り、娘たちと一泊の思い出作りを楽しむなどの援助をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開錠AM6:00、施錠PM19:00で夜勤職員が行なっている、日中はオープンにしており、一般家庭と大差はない、今までにホームからの徘徊は1回あったが、発見が早く大事に至っていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間計画及び避難訓練表をもとに、防火点検と避難訓練を月1回、そのうち年2回の総合訓練は所轄ケアマネ1、地域住民2、消防団員1、婦人消防協力隊員2名が加わり、デイサービスも参加し実施している。	○	事業所としては地域住民代表だけでなく、隣組又は町内会のメンバーの参加も希望している。今後の働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護観察表に体温、その他が細かく記入されており、1日の水分量は食事+1,000mlを目安として摂取するようになっている、グループ内の管理栄養士の指導の下にチェックがなされ、食事量の記入は病院(朝全食、昼2分の1等)方式で記入され、カロリー制限のある入居者には野菜を多くしたり、盛り付けを工夫するなどして、見た目の変化はつけないよう配慮し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はあまり個室に戻らず、日中は共用の場所で過ごすことが多い、季節を感じる飾りつけ(七夕のぼんぼりと吹流し)があり、共用空間、廊下の掲示板などには利用者の作品が展示されている、椅子、ソファが随所があり、広くゆったりした職員の休憩室とレクリエーション室、中庭の休憩所、廊下の外縁を利用した喫煙所なども設けられており、くつろぎの空間は確保されている。	○	レクリエーション室を使いやすくするために工夫したいと考えているようであるので、今後の取り組みに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には時計、1年分の月間カレンダー、老人クラブからの感謝状、家族の写真、絵が飾られており、自宅で使用していた家具(ボックス、鏡台、たんす)は使い慣れた位置に置かれていた、また、家族が書いた暮らしの約束事が張られており、それを毎日見て実行する利用者もいるなど、本人が暮らしやすい工夫をしている。		